

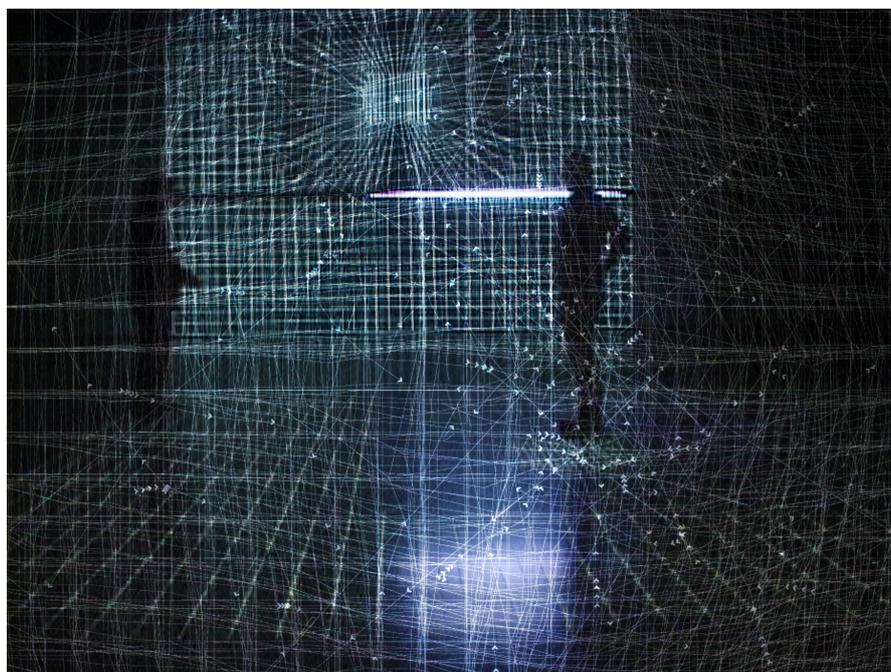
2004年3月プレスリリース

山口情報芸術センター（YCAM）presents

アートインスタレーション

「gravicells 一重力と抵抗」

「gravicells - gravity and resistance」



アーティスト：三上晴子＋市川創太

山口情報芸術センター（YCAM）presents

アートインスタレーション

「gravicells —重力と抵抗」 「gravicells - gravity and resistance」

アーティスト：三上晴子＋市川創太

山口情報芸術センター（YCAM）では、「科学とアートの対話」プロジェクトをスタートいたします。これは普遍的科学とアート表現を、最新のメディアテクノロジーを媒介にして体験可能な作品として発表していくものです。

今回は、その第1弾として、来る5月15日（土）より6月20日（日）まで、知覚によるインターフェイスを中心とした作品を発表してきたアーティスト、三上晴子（みかみせいこ）と、建築家で実験建築ユニット「doubleNegatives」主宰の市川創太（いちかわそうた）両氏のコラボレーションによる新作体験型アートインスタレーション作品「gravicells（グラヴィセルズ）—重力と抵抗」を開催いたします。

日時：2004年5月15日（土）～6月20日（日）10:00～22:00 火曜休館

会場：山口情報芸術センター スタジオB 入場料：無料

重力と抵抗。その均衡のもとに、わたしたちの世界のすべては成り立っています。この作品は、重力を日常とは違った形で感じるにより、身体を再知覚し、人間の新たな感覚を開いてゆく可能性をもつものです。

作品は、室内空間（YCAM／スタジオB）に、重力とそれに対する抵抗力という、2つの引き合う引力磁場のような仮想の力学場を特殊な装置とセンサーによって設定します。その中に観客が入って自由に歩き回ること、普段自覚的に意識していない身体への重力の負荷と、それに対抗する反力を感じることができ、また他の体験者の力の作用も感じ取ることができます。参加している体験者全員の動きと変化が、センサーを通じて音・光・画像の動きに生成され、空間全体が大きく変容していく体験型のインスタレーション作品です。

今回は、YCAM におけるアーティストの滞在制作をへて発表される新作品で、重力センサーや装置など、このためにすべて独自に開発された初公開のものになります。

※ 本作品は、YCAM での発表後、ロッテルダム（オランダ）での展示が予定されています。

* gravicells（グラヴィセルズ）

cell とは、建築用語で部屋や個室を表し、生物用語では細胞を示すように、空間の単位を表しています。今回の作品では展示空間全体～センサーユニット空間から人間の細胞空間までそこに負荷されてくる重力とそれへの反発力を可視化しようとする意図から gravi-cells として重力と空間の関係をネーミングしています。

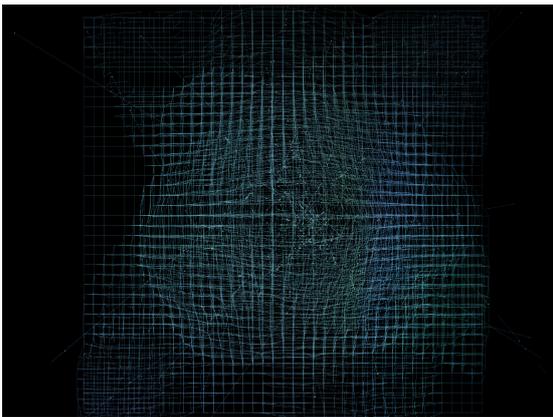
作品体験内容解説

インスタレーション空間の中央には、センサーが内蔵された 6m×6m の平面の床が設置されています。そこに体験者が立ち、移動すると、加重が瞬間的、連続的に位置・重さ・速度の変位が計測・解析され、光・音・画像に反映されて大きな空間的变化を生み出していきます。現実空間と同期する仮想空間は重なり合い、空間のジオメトリを再構成して、体験者の重力による座標のゆがみをつくり出します。

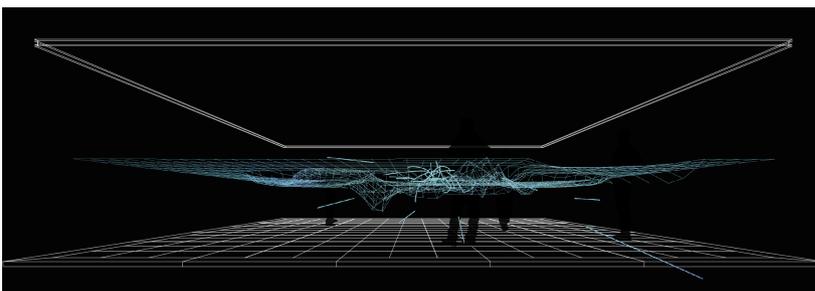
床のスクリーンにプロジェクションされているのは、距離計測を意識したグリッド画像であり、体験者の位置、動きに連動して座標系をリアルタイムに生成、修正し、ジオメトリを構成します。また、目線の高さに設置された同じく 6m×6m のグリッド状の LED の光による水平ラインとマルチチャンネルによる音定位は身体のインデックスを表し、光量変化と音の方向性において連続したデータとなって空間を変容させていきます。

またインスタレーションが設置される場所自体は、GPS 衛星により同時に位置計測されており、地球の外部における観測点を取り込んでいます。これは、わたしたちの知覚領域が拡張されたものとして、インスタレーションの場もまた静止している場ではなく、重力によってつねに運動している相対的場であることを提示し、多義な重力の解体の可能性を感じとっていくための装置となるわけです。

今回の作品は、同時に複数人数の体験が可能となり、それぞれの存在が相互影響を与え合う、より複雑な重力と抵抗のプロセスの表現が提示可能となっています。(体験者がセンサー領域内にいない場合も、この力学計算は継続され、変化し続けます。)



[コンセプトイメージ]



[コンセプトダイアグラム]

アーティストプロフィール

三上晴子

アーティスト。1961 年生まれ。

1984 年から情報社会と身体をテーマとしたインスタレーション作品を発表。90 年代初頭「インフォメーション・ウェポン」シリーズなどの作品で注目される。その後 1992 年から 2000 年までニューヨークを拠点に活動。1996 年からは知覚によるインターフェイスを中心としたインタラクティブ作品を中心に発表。1996 年視線入力技術を応用した作品「モレキュラー・インフォーマティクス」(キヤノン・アートラボ企画展) を発表、以後ヴァージョンアップを進め、ロッテルダム DEAF (オランダ 1996,1998)、ミロ美術館 (スペイン 1999)、ナント美術館 (フランス 2000)、ベルリン・トランスメディアレ (ドイツ 2002) など、ヨーロッパ各地でも多数の展示を行う。1997 年 NTTICC 開館時の常設となった聴覚と身体内音による作品「存在、皮膜・分断された身体」を発表。その他、触覚による三次元認識の作品などがある。現在東京を拠点に活動。多摩美術大学助教授。

<http://www.idd.tamabi.ac.jp/artworks/index.htm>

市川創太

建築家。1972 年生まれ。doubleNegatives 主宰

1995 年より空間の表記方法をテーマにしたプロジェクトを開始し、身体と視点・観測点の関係を切口に、建築を成立させる様々な拡張領域を考察する。1997 年ドイツのメディア・アーティスト Knowbotic Research (ノウボティックリサーチ) の東京におけるプロジェクト《IO_DENCIES》に参加。1997 年にライフスケープ研究所に入所、荒川修作+マドリンギンズの数奇屋建築「ひなやプロジェクト」の基本設計および実施設計を担当する。1998 年に多領域から専門家で構成する建築ユニット「doubleNegatives」(ダブルネガティブ) を開設。建築家としてディレクションを手掛ける一方、個人としてソフトウェア開発や、ネットアート、クラブイベントでの VJ などを行う。2000 年宮城県に新設された「感覚ミュージアム」に参加し、常設のインタラクティブ作品である音の建築「dqpb #2.0-dynamic quadruple phonic building」を発表。

<http://www.doubleNegatives.jp>

三上晴子+市川創太ノコラボレーションプロジェクト

2003 年よりスタートした三上晴子+市川創太によるコラボレーションによるシリーズ「重力と抵抗」プロジェクトは、様々なヴァージョンへと発展中で、今後の展開も含めて現在進行中のプロジェクトである。2004 年は、YCAM での発表のほか、本作のオランダ、ロッテルダムでの DEAF（オランダ電子アートフェスティバル）への参加が予定されている。

■「重力と抵抗：粒子と流動バージョン」

2003 年 1 月 多摩美術大学メディアセンターホール

"Gravity and Resistance": The Version of particles", Tama Art University Media Center, Jan 2003, Tokyo.

■「重力と抵抗：無響室バージョン」

2003 年 3 月 NTT インターコミュニケーションセンター「コミュニケーションの現在 2003」

"Gravity and Resistance": The Version of the Anechoic Room". NTT Intercommunication Center [ICC], March 2003.

■「マイクロ・グラヴィティ」シンポジウムとワークショップ

2003 年 6 月 ロッテルダム（オランダ）

"Gravity and Resistance": Workshop and Symposium. V2 Organise, Rotterdam, The Netherlands, June 2003.

<概要>

アートインスタレーション

「gravicells —重力と抵抗」 「gravicells - gravity and resistance」

アーティスト：三上晴子+市川創太

会期：2004年5月15日（土）～6月20日（日）

時間：10:00～22:00 火曜休館

会場：山口情報芸術センター スタジオ B

入場料：無料

主催：財団法人山口市文化振興財団

制作：山口情報芸術センター

* 関連シンポジウム

日時：2004年5月16日（日）14:00～16:00

場所：山口情報芸術センター スタジオ C

出演：三上晴子、市川創太、その他ゲストパネラー予定

入場料：無料

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

JR 新山口駅から

- ・ JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分
- ・ JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分／バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)／タクシー5 分
- ・ 防長バスで 25 分、中園町下車

自動車利用

- ・ 山陽自動車道で防府東 IC から 30 分
 - ・ 九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分
-

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター（広報担当：小滝）

TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

EMAIL:info@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

753-0075 山口市中園町 7-7